HUMANO

2026.3 VOL.13

出会い・つながり・未来へ

目次

01 日本青年国際交流機構
第41回全国大会（青森県）

02 中国ブロックイベント（広島県）

03 IYEO創立40周年記念企画①
ウェブサイトリニューアル

04 IYEO創立40周年記念企画②
にっぽん丸クルーズ

05 IYEO創立40周年記念企画③
記念アルバム

06 Meetupイベント

IYEO 広報誌 HUMANO vol.13
編集・発行 日本青年国際交流機構(IYEO) International Youth Exchange Organization of Japan
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14 東京海苔会館6階
E-mail: iyeo.press@gmail.com ウェブサイト: http://www.iyeo.or.jp
HUMANOは会員手作りの広報誌です。一緒に活動するメンバーを大募集中！
編集: 有江幸司、北山芙弥恵、衣川玲奈、笹木愛、三宅香菜子、横倉萌子（五十音順）
デザイン: 櫻井真優、横倉萌子

01 日本青年国際交流機構 第41回全国大会（青森県）

日本青年国際交流機構
第41回全国大会

青森大会

開催報告

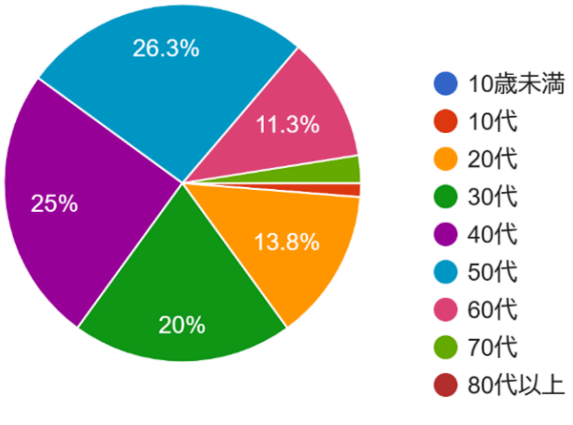
Meet me, Meet the new me
～新しい自分に出会う旅～

2025年10月25日、青森県にて日本青年国際交流機構（IYEO）第41回全国大会を開催しました。本大会には、全国各地から参加者が集い、主催者・実行委員を含め総勢155名が参加しました。青森県での全国大会開催は、今回が初めてとなります。

秋の澄んだ空気に包まれる中、「新たな挑戦への第一歩は、今の自分を見つめ直すこと」をテーマに、多様な対話と体験型プログラムを実施しました。全国から集まった仲間との交流を通して、参加者一人ひとりが自分自身の想いや価値観に向き合う時間となりました。

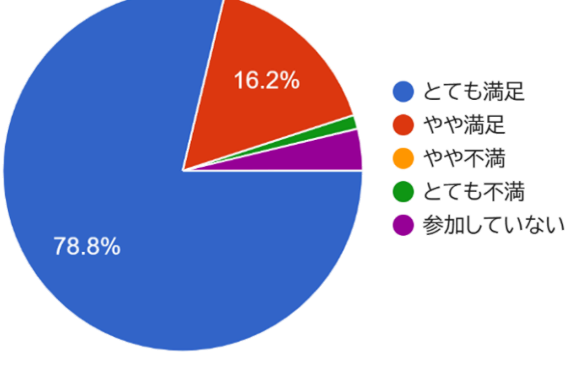
老若男女が青森に集結

参加者の年代別分布



基調講演の満足度

回答者満足度 95%



全体スケジュール

第1部

開会式

基調講演

「この街で夢をかなえる」

株式会社樋川自動車/有限会社リンゴミュージック
代表取締役 樋川新一氏
地域密着型アイドル「りんご娘」のプロデューサーに地方からの挑戦と夢の叶え方について熱く語っていただきました。

ポスターセッション

地域で多様なプロジェクトに挑む高校生・大学生・社会人が、自らの活動をポスター展示形式で紹介。
来場者と直接対話しながら、地域を動かすリアルなストーリーを発信しました。

パネルディスカッション

「世界にはばたく、青森からはばたく」

地域に根ざしながらも、国内外で挑戦を続けるパネリストが集い、未来のキャリアや地域との関わり方について語り合います。それぞれのフィールドで培った経験を共有し、「地域から広がる可能性」や「世界とつながる挑戦の意義」を参加者と一緒に考えました。

第2部

Next Local Heroes

内閣府青年国際交流事業の参加者による体験報告と、地域で挑戦を続ける若者・団体による5分間のショートプレゼン。今を生きる若者たちの生の声を聞き、地域の未来について考えました。

懇親意見交換会

ねぶたの家ワ・ラッセを貸し切り懇親会!豪華ねぶたの前で「北海道・東北 七魂祭」が繰り広げられました。

北海道・東北 七魂祭

北海道	青森県	岩手県	秋田県	山形県	福島県	宮城県
子供盆おどり	ねぶた祭り	さんさ踊り	竿燈まつり	花笠音頭	わらじまつり	仙台すずめ踊り

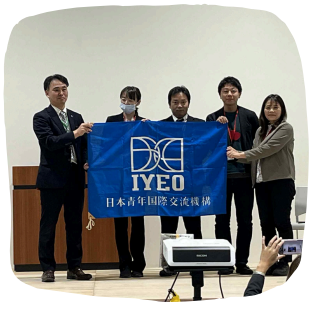
実行委員インタビュー

大会を振り返って、特に印象に残っているエピソードはありますか？
裏話や制作秘話を教えてください。

全国大会は、比較的早い段階から開催に向けた検討自体は始まっていました。
一方で、実行委員会内において全国大会としての位置づけや青森開催の趣旨について改めて丁寧に確認・すり合わせを行う必要があったことや、関係者の担当者変更等により一部方向性の調整を行う場面もあり、準備には想定以上の時間を要してしまいました。

そうした過程を経て、今回の大会では、青森開催ならではのテーマ設定を明確にし、地域で挑戦している方々や若い世代の声をしっかり届ける構成を大切にしたいと考えていました。
特に印象に残っているのは、第2部で実施した「Next Local Heroes（ネクスト・ローカル・ヒーロー）」でした。
地域、あるいは「地域×国際」という視点で活動している若者や高校生の皆さんにピッチをしていただき、その発表をきっかけに、内閣府青年国際交流事業の既参加青年との間で活発な意見交換が生まれていたことが、とても印象的でした。
立場や経験年数は違っても、「地域で何かしたい」「挑戦したい」という思いを共有することで、お互いに刺激を受け合う、良い相互交流の場になったのではないかと感じています。

また、懇親会では、青森・東北の文化にとって欠かせない「お祭り」という要素を意識し、ねぶたをはじめとした地域文化を感じられる空間づくりを行いました。形式ばった交流ではなく、同じ空間・同じ体験を共有することで、自然と距離が縮まり、青森らしいあたたかなつながりが生まれていたように思います。
全体を通して、「青森で開催するからこそ実現できる交流」を意識しました。



竹中会長が入会されたときと今の活動で、大きく変わったと感じることは何ですか？

私が青森県IYEOに関わり始めた頃は、主に内閣府青年国際交流事業の既参加者同士が経験を共有し、ネットワークを維持していくという点で、とても重要な役割を果たしていました。実際、私自身が「世界青年の船」事業に参加するきっかけも、青森県IYEOからの発信であり、今でも大変感謝しています。
一方で、現在の青森県IYEOの活動は、地域や次の世代へと開かれた形に広がってきている点が、大きな変化だと感じています。

具体的には、

地域の高校生・大学生など若い世代との接点づくり

地域で挑戦している人たちとの連携

国際交流の経験を、地域づくりや人材育成につなげる視点

といった取り組みが増え、青森県IYEOの活動が地域の中で少しずつ役割を持ち始めている印象です。

運営面では、全国どの地域も同様に、かなりの少人数で余裕はありません。
ただ、青森県IYEOの場合は、地域や行政、教育現場などと何らかの形で関わりを持つメンバーが多く、外部との連携を自然に生みやすいという点が、今の強みだと感じています。
IYEOとしての「国際交流」の経験を軸にしながら、それを地域の人材育成や次の挑戦へとつなげていく。
そうした役割へと、少しずつ進化してきているのが、今の青森県IYEOの姿ではないかと感じております。

来年度の抱負をどうぞ!

2026年度の抱負は、まずは全国大会を担ったコアメンバーがしっかりと休息を取ることでしょうか（笑）
皆さんそれぞれ、お仕事やプライベートで忙しい中で活動してくださっているからこそ、次につなげていくためにも、無理を重ねないことを意識していきたいと思っています。
その上で、今年すぐに大きな動きをつくるというよりは、今後に向けて、全国大会で生まれたつながりや気づきを、無理のない形で少しずつ広げていければと考えています。

また近年は、地方プログラムに関わってくれたローカルユースの中から「世界青年の船」事業に参加する人が出てきたり、地域で何らかの活動を継続してくれたりと、少しずつではありますが良い循環が生まれ始めています。
こうした事例が出てきていることは本当に嬉しく、目に見えにくい草の根の動きを大切にしながら、
今後も広げていきたいと感じています。

02 中国ブロックイベント（広島県）

2025年12月13日、広島国際会議場にて、中国ブロックイベント（広島県）を実施しました。イベント当日は、全国のIYEO会員の方、また、広島県内の大学や高校生など総勢69名（当日）にご参加頂き、Dialogue（対話）を楽しんでいただきました。

今回のイベントテーマは、「Hiroshima Dialogue for Peace Action ー 自分を知り、世界を変える ー」としました。今回のイベントでは、平和な社会や世の中を築くためにはどのようなことができるのか、世界の中における広島の存在を考えるとともに、自分自身をみつめ、次の世代を担う若者たちの「未来（これから）の活動」に焦点を当て、これからのヒロシマからの発信について考えました。

基調講演に住岡健太氏、分科会にPCV（Peace Culuture Village）さんをお迎えし、Dialogue（対話）をイベント全体のコンセプトとし、参加者一人一人が能動的に参加頂きやすいよう企画・構成しました。

基調講演においては、講演のみならずグループWSを取り入れました。また、2つの分科会においては、分科会Aでは、グループWSによりActionプランを考え、分科会Bでは、PCVさんが日頃修学旅行生向けに提供しているPeace Dialogueを体験し、ピースバディとの対話を頂きました。

広島に原子爆弾が投下されてから80年を迎えましたが、今なお、イスラエル軍のガザ地区における軍事行動や、ロシアのウクライナ侵攻なども続いており、まだまだ、世界中が、平和な世の中になるには遠いことかもしれません。そして、戦争を知る世代、被爆された方の高齢化と減少が進み、構築されてきた平和文化の継承は喫緊の課題でもあります。そのような中、今回のイベントを通じ、私たち一人一人が「平和」構築に向けて、どのようなActionができるのか、考える機会となったことは意義深いものだったと思います。

■基調講演

住岡健太氏は広島出身の被爆三世で、NPO法人Peace Culture Village専務理事として活動しています。幼少期から平和を問い続け、平和教育と持続可能な平和文化の創出に国内外で取り組んでいます。

住岡健太氏

◇分科会A◇

分科会Aでは、基調講演でのグループWSをさらに深掘りし、未来へ向けて具体的に何ができるかグループで対話しながら考えました。参加者には「平和×○○シート」が配られ、見たい（あるいは見たくない）世界と、自分の好きなこと・得意なこと・没頭できることを書き出しました。適宜グループ内で書いたことを共有し、意見交換しながら「平和×○○」の○○に当たるキーワードを付け、各自Actionプランを考えました。対話の中で、平和の形が人によって異なり、「平和×○○」も多種多様であることが印象的でした。普段の各々の活動と平和を結び付けられ、一歩進んだ活動ができるようになり、可能性を広げられたWSでした。

◇分科会B◇

分科会Bでは、NPO法人PCVの「Peace Dialogueプログラム」に参加し、広島のU-29世代ガイドによる平和公園視察を体験しました。今回は高校生ガイドが担当され、80年前の人々の生活や街の様子が目の前に浮かぶような、具体的で分かりやすい説明がとても印象的でした。教科書で学んだ戦争が、遠い過去の出来事ではなく、今の私たちの暮らしとつながる現実として実感できました。また、参加者それぞれの感じ方や受け止め方の違いに触れることで、多様な視点を知り、平和について考える視野を広げてもらえる貴重な視察プログラムでした。

おまけショット

イベント開催後には、世界遺産・宮島の厳島神社をはじめ、大聖堂などを巡る観光ツアーが企画されました。地元の方ならではの視点で、おすすめの観光スポットやお土産を紹介いただき、参加者からは「広島県IYEOスタッフの観光案内が素晴らしく、見逃しがちなポイントまで教えてもらえて、とても楽しい時間でした！」と、大変好評でした。

03 IYEO創立40周年記念企画① ウェブサイトリニューアル

2025年9月、IYEO設立40周年という記念すべきタイミングで、日本青年国際交流機構（IYEO）の公式ウェブサイトが新しく生まれ変わりました！ 今回のリニューアルがどのような背景で始まり、どんな困難を乗り越えて完成したのか。そして、新サイトに込められた思いや注目の新機能について、ご紹介します。

1. プロジェクトの始まり：見えてきた情報発信の課題

以前のウェブサイトには、大きく分けて3つの課題がありました。

①団体・活動状況がわかりにくい：
　トップページの情報が古く、非会員にIYEOの魅力が十分に伝わっていない。
②入会手続きが見つけにくい：
　ウェブサイトから入会できることが分かりづらく、入会意思がある方を取りこぼしてしまう。
③運営が難しい：コンテンツの更新やレイアウト変更の負担が大きく、更新頻度が落ちてしまう。

これらを解決し、より明確な情報発信と入会導線の整理、そして運営効率化を図るため、2024年11月の全国推進会議にてウェブサイトのリニューアルプロジェクトと予算が承認され、本格的に始動しました。 制作にあたっては、IYEOへの理解を深めることを目的に会員内から製作者を募集し、応募いただいた方々との企画・予算のプレゼンや面談を経て、最終的に株式会社レジスタに制作を依頼することとなりました。

2. 直面した「情報整理」の壁

こうしてスタートしたプロジェクトですが、制作が進むにつれて、IYEO内部の情報整理の難しさが次々と浮き彫りになりました。ドメインや沿革、SNS、規約、会員特典や寄付特典、個人情報、ファンド報告書、各種活動記録といった多岐にわたる情報が統一管理されておらず、管理責任者も不明確な状態でした。これらの内部情報の整理には想像以上の時間を要し、制作に遅延が生じることとなりました。そんな状況でも、毎週のようにミーティングを重ね、根気強く伴走し協力してくださった制作チームの皆様には、この場を借りて心より感謝申し上げます。

3. ターゲットの再定義

今回のリニューアルでは、ウェブサイトの役割を明確にしました。 新しいウェブサイトのメインターゲットは、内閣府事業に参加した直後の若い世代の非IYEO会員です。IYEOのことをほとんど知らない方が、IYEOのことを直感的に理解し、共感しやすいように情報を大幅に整理しました。 一方で、これまで混在していたIYEO会員向けの内部情報については、会員専用の「よろずWeb」（https://sites.google.com/iyeo.or.jp/iyeo/）へと集約していく方針としました。

4. 新ウェブサイトの注目機能・見どころ

以前のサイトが抱えていた課題は大幅に改善され、新たな魅力が詰まったウェブサイトが完成しました。特に注目していただきたい主な機能をご紹介します。

ターゲット層向けのデザイン刷新
「Challenge for Challengers（挑戦者のための挑戦を、世界と地域と世代をつないで。）」というキャッチコピーのもと、内閣府事業直後の参加青年の心に響く、ポップで活動的なデザインへと進化しました。

入会・寄付の情報整理と導線改善
会員の種類や入会費、得られる特典が一目でわかる表を配置し、迷わず新規会員登録フォームへ進めるよう導線が飛躍的に向上しました。

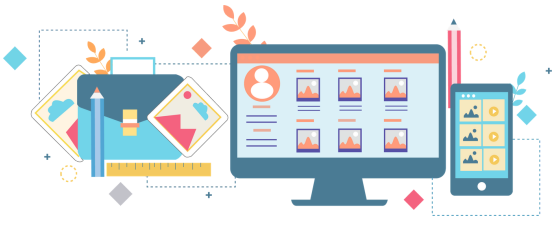
イベント・記事の探索機能強化
「#内閣府事業」「#地域活動」「#国際交流」などのタグ検索やキーワード検索機能が強化され、読みたい記事や参加したいイベントへ直感的にアクセスできるようになりました。

幹事紹介ページの新設
組織を支えるメンバーの顔が見えるようになり、団体としての透明性と親しみやすさが向上しました。

全HUMANO（過去10年分）の公開
本誌「HUMANO」の過去10年分のアーカイブがウェブ上で一覧できるようになりました。IYEOの歩みと歴史をいつでも振り返ることができます。

英語切替機能の新設
グローバルな発信に対応するため、英語表示への切り替え機能が新たに実装されました。

データ計測機能の復旧
アクセス数やユーザーの動向を把握するデータ計測機能が整い、今後の客観的なサイト改善に活かせるようになりました。



5. これからのウェブサイトと皆さんへのお願い

さまざまな壁を乗り越え、無事に公開を迎えることができた新ウェブサイトですが、ここで終わりではありません。まだまだ改善が必要な部分もあります。今後はIYEOの情報の集積地として、IYEO非会員が団体を理解しやすいというユーザー視点の全体最適を最優先に、さらなる改善を進めていきます。ぜひ、会員の皆様には、各種イベントや活動を発信する際には、初めてIYEOを知る人（ユーザー）の目線に立った情報発信に、引き続きご協力をお願いいたします。最後に改めて、今回のウェブサイトリニューアルにあたり、大変な情報整理にご協力いただいたすべての皆様に深く感謝申し上げます。新しくなったウェブサイトとともに、IYEOの次の10年、20年を一緒に創っていきましょう！

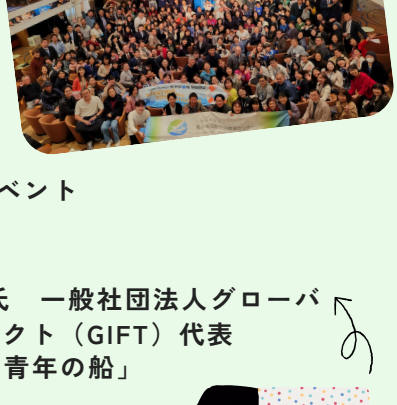
04 IYEO創立40周年記念企画② にっぽん丸クルーズ

IYEOは、2025年に設立40周年の節目を迎えました。
IYEOは、参加青年の人生に多大な影響を及ぼす、"Life Changing Experience”を共有するコミュニティとして発展を続けてまいりました。この大きな節目を機に、青年国際交流事業をより良い形で次世代へ継承し、豊かな生態系として育むための「新たな仕組みづくり」への挑戦を掲げ、IYEOの「新しい船出」を祝すとともに、会員相互の親睦および本事業への理解を深めることを目的として、「ありがとう。にっぽん丸クルーズ」を企画しました。

【参加者】
東南アジア青年の船63名、世界青年の船134名、青年の船10名、航空機派遣2名、日本・韓国青年親善交流2名、参加者の家族81名、292名+実行委員

Day1 2025/12/18

16:00~16:20	出航式
16:20~16:30	写真撮影
16:40	避難訓練
17:00	名古屋港 出港
18:00	夕食
20:05~21:45	スペシャルナイトイベント ＜基調講演＞ 講師：辰野まどか氏　一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト（GIFT）代表 第28回「東南アジア青年の船」事業既参加者 その他、民族衣装コンテスト、WORLDクイズ大会、ラッフルチケット抽選会、にっぽん丸ソング合唱など。
21:45~22:15	にっぽん丸航海士による星座教室
22:15~23:30	インターナショナル ダンスパーティ ＜フラメンコショー＞ 講師：永田健氏　フラメンコダンサー 第22回「東南アジア青年の船」事業既参加者



Day2 2025/12/19

6:00 ~6:30	サンライズヨガ
6:30 ~7:00	モーニングコーヒー
6:45 ~7:00	おはよう体操
7:00	朝食
8:30 ~8:45	写真撮影
9時頃	神戸港入港 下船

【開催の背景】

にっぽん丸の引退発表の翌日、タイミングよく内閣府での会議のため東京に参集したIYEO会長・副会長・事務局長たちが記念イベントを開催できないかという話になり、すぐに東武トップツアーズに問い合わせるも、引退まで全ての日程が埋まっていると言われ断念。その数日後に幸運にも名古屋から神戸に移動する日があると連絡を受け、IYEOで貸切ることになり、本イベントを企画しました。年末の平日2日間、しかも短時間という条件の下、果たして参加してくれる人はいるのだろうかと、不安を抱きながら実行委員会を重ね、郵送、メーリングリスト、SNSにてイベントの周知を行いました。驚くことに予約開始10分ほどで280名の予約枠の大半が埋まり、その日のうちに完売。実行委員にて検討し、320名に予約枠を引き上げ、多くの人たちに乗船してもらうことができました。

＼参加者の声／　（参加者事後アンケートより抜粋）

これだけの規模、人数、多様性を、温かい場にしてくださったプロフェッショナルな皆様に、心から感謝です。船から生まれたスピリットをこれからも大切にしていきます。

下船から月日が経っても色褪せていない青春がにっぽん丸にはありました。日々の忙しさにかまけて忘れていた若かりし日の気持ちを思い出したような気がします。

再会を喜び合い楽しむことができたのは、いかに船事業がわたしの人生において大きなものであったかということ、世界や人との出会いの素晴らしさを心底信じることができる幸せを、再確認できました。過去を振り返って、今（再会）を喜び合い、未来にワクワクすることができたクルーズでした！

一瞬一瞬が全て感謝の時間でした。そして、思いを新たにすることもでき、とても大切な時間でした。この事業を始め、続け、守り続けてくださる全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。私もこの価値を伝え続け、広げ続けていきます。

05 IYEO創立40周年記念企画③ 記念アルバム

～40周年の歩みを一冊に。記念アルバム制作チームの意気込みをインタビュー！～

※本記事の内容は、2026年1月時点の情報です。

IYEOは2025年4月1日、設立40周年という大きな節目を迎えました。私たちが共に歩んできた40年間の軌跡を一冊の記念アルバムに綴るべく、日々少しずつ形にしているところです。 2026年3月の発行を目指し、当時の熱気や感動が蘇るような誌面を一頁一頁作り上げています。

今回は、アルバム制作を支える実行委員のメンバーから、それぞれの想いを伺いました。

編集長　三田寛之さん（財政幹事）

すてきな編集部員の方たちと作成できて光栄です。
みなさんの期待を超える記念誌を目指しています。

Aチームリーダー　笹木愛さん
（神奈川県IYEO•東京都IYEO)

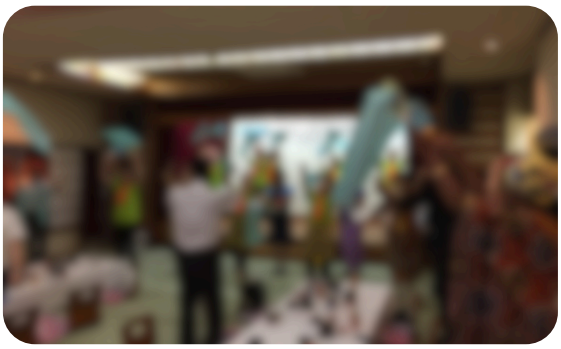
最高の節目を彩る一冊に。
楽しみにしていてください！

Bチームリーダー 齋藤友里奈さん（北海道IYEO）

IYEOの軌跡を振り返る40周年記念アルバム！
ぜひお楽しみに！

【制作現場をチラ見せ！】

誌面の詳細は完成までのお楽しみ……ということで、集まった写真を少しだけ『チラ見せ』でお届けします！1977年度日本青年海外派遣団青友会全国大会や2025年パラ卓球ジャパンオープン東京大会ボランティアまで、時代も年代も様々な皆さんの大切な思い出がたくさん集まりました。
※完成までのお楽しみとして、写真を加工して掲載しています。



取材協力：坪井南佑美さん（財政幹事／編集委員）
今回の記事掲載にあたり、多大なるご協力をいただきました。最後に、編集委員として制作に携わる坪井さんからも一言メッセージをいただきました。

たくさんの素敵な写真をご応募いただきありがとうございます。皆様の思いを一つ一つ大切にアルバムに込めさせていただきます☺️

06 Meetupイベント

IYEO広報チームでは、ゲストを招いたMeetupイベントを複数回開催しており、2025年11月30日に第四弾を開催しました。

ゲストは、社会起業家でソーシャルマッチ株式会社代表の原畑 実央さんです。原畑さんはこれまでカンボジアを始めとする東南アジアと日本の社会起業家をつなぎ、社会問題の解決に取り組まれてきました。

第一部では原畑さんより、社会問題の解決に取り組まれてきたこれまでと将来の展望など、貴重なお話をお聞きしました。カンボジアを始めとする東南アジアと日本の社会起業家をつなぎ、さまざまなコラボレーションを実現されてきたこと、多くの学生が実際にカンボジアを訪れることに寄与されてきたことなど、興味深いお話しをたくさんお聞きすることができました。

第二部は、グループワークショップです。現地参加者、オンライン参加者それぞれでグループを作り、「カンボジアの特産品を活用して、現地の社会起業家とのコラボ商品を考える」という課題に取り組みました。面白いアイデアから実現可能性が非常に高いアイデアまでとても興味深かったです！

イベント後は懇親会へ。原畑さんとも交えて、よりカジュアルな雰囲気で交流ができ、会話が弾む時間でした！